

## 鶴岡市総合計画審議会 会議概要

- 日 時 令和6年12月24日（火） 午後3時00分から午後4時45分まで
- 場 所 東京第一ホテル鶴岡 鳳凰の間
- 出席者 別紙委員名簿のとおり（委員15名中10名出席）
  - 出席委員 尾形昌彦委員、平智委員、武田真理子委員、成澤剛委員、大久保紀子委員、上野雅史委員、工藤久子委員、齋藤祥子委員、酒井忠順委員、大橋由明委員
  - 欠席委員 福原晶子委員、山木知也委員、庄司愛恵委員、丸山絢子委員、山中大介委員
- 傍聴者 6名
- 協議題等 総合計画後期基本計画の進行管理について

### 「市民への普及・啓発」に関すること

#### ○委員

- ・総合計画の普及啓発のため、中学生などにも分かるように今回初めてPR版を作り、QRコードなども付けて5つの加速化アクションを詳しく見てもらおうとした訳だが、この効果について検証しなければならないと思う。アンケートなどの手法が考えられるが、もし効果がないとすれば、次は漫画や動画など、時代に合ったものを考えていかないと市民への普及は難しいと思う。
- ・市民ワークショップを致道館高校で行ったが、目標は高校生独自のアイデアを引き出すことだと思っている。今回実施した致道館高校では探求学習の一環として実施したため、生徒は説明を受けるという受け身で終わってしまった感がある。概要版を資料として渡したが、高校生はそれを勉強するため、その資料を超える高校生らしい斬新なアイデアが出てこなかったことが残念なところである。そのため、単発のワークショップではなく、せめて3回程度のプログラムとして、未来の鶴岡市はこうあって欲しいというような高校生らしい意見が出るような場にしないと市民への普及はなかなか進まないと思う。

#### ○委員

- ・SNSで発信することも有効だが、情報が軽くなることも考えられ、その点が難しい。酒井家入部400年事業の際もYouTubeで発信したが、その効果を視聴者数で測って良いものか、インターネットを使った周知については、効果を測定することは難しい面もある。

#### ○委員

- ・市広報12月号の表紙がとても良く、反響が大きい。広報の中身も数年前から徐々に良くなっており、大変見やすくなっている。また、12月広報は内容がユネスコ10周年事業を記載しており、表紙の男の子の笑顔と相まってとても良い広報に仕上がっていると思う。広報やユネスコ10周年事業を通して、市の努力や職員の底力を感じる。こうしたことを総合計画の市民普及などにも生かせると思う。

#### ○委員

- ・市民に興味・関心を持ってもらうという観点では、ふうどフェスタやサイエンスパーク祭りなど様々な取組が行われているが、市民参加型の取組が行われることで、市民が鶴岡のことを知り、また印象に残っていくことが多いと思う。若い世代への普及という点では、子どもと一緒に参加できる取組は効果的であると思う。
- ・小学生など子どもの頃から鶴岡の特徴、良さを知ってもらうことが大切である。学校のカリキュラムの中に、鶴岡を知る取組を加えていくことが重要であると思う。

#### →（教育部長）

- ・子どもの頃から鶴岡をよく知る、誇りを持ってもらうということは大変重要なことであ

る。学校は、教育上、子どもたちに学習させなければいけない制約がある中ではあるが、教育委員会でも学校と協議しながら創意工夫をしていきたい。

#### → (教育長)

- ・市民ワークショップの意見を見ると、高校生や小学生らしさが出ていると思う。この取組は、子どもたちが課題に気づき、自分で考え、実行し、また振り返るといった探求活動のきっかけづくりになっていると思う。
- ・学校教育の中で全て行っていくことは難しいが、教育委員会では「地域と共にある学校」を目指していることから、地域の探究活動には取り組んでいきたい。

#### ○委員

- ・今回のような場に高校の生徒会長などからも参加してもらい、意見があれば聞いてみたい。子どもたちも参加できる会議など、そうした場づくりも検討できないか。

#### ○委員

- ・致道館中学校と四小で行った今回のワークショップは、プログラム化するかは別としても、機会を増やしていくことが地道な一歩になると思う。地域を誇りに思えるかどうか、地域に帰ってくるかどうかということに繋がるのではないかと思う。地域を語れる子供を増やして欲しいと思っている。
- ・授業の中ですべてをやろうとしても無理だと思うので、例えば「鶴岡市のことを知る日」を創り、映像を昼休み流したりするなどすれば、鶴岡市を知るようなものを簡単でも良いので、あまりお金をかけずに学べることもできるのではないかと思う。
- ・総合計画の普及・啓発について、今回 Line での周知などが行われていないようなので、例えば、総合計画と言うと固くなってしまいうので、鶴岡市が今後考えていることを、ワンボタン押すだけで、興味のあるテーマに飛べるような、ソフトタッチで総合計画に触れられる仕組みもあっても良いと思う。
- ・市民アンケートについて、視察に行ったある市では3,000人ぐらいの市民を対象に、アンケートを取っていた。郵送で50%ほど返ってきている。毎年テーマを変えて、アンケートを取っているようであるので、やはりサービスを受けている市民がどのように感じているかは次の政策に活かされるべきものであると思うので、広報のあり方も含めて、何かしらの調査が必要なのではないかと思う。

#### ○委員

- ・マイナンバーカードを使ってコンビニなどで行政書類を時間関係なく取れるようになったが、先日、必要な書類があったので自分でやってみた。値段も半額であったが、そういう情報を広報で「やってみた」という感じで、紹介してみる広報のあり方も良いと思った。紙の広報もデジタルに対応できない人にとっては貴重な情報元であるので、それを見てやってみようかなという意識が出てくるのではないか。

#### ○委員

- ・PRについては定期的な発信が必要である。鶴岡市の SNS はここにいる方たちはフォローされているか。最初はフォローすることが一番大事である。SNS 利用者はフォロワーの人数を閲覧する際の参考にするので、フォロワー数が多いと更に見られることに繋がってくると思う。

### 「若者・子育て世代に選ばれるまちづくり」に関すること

#### ○委員

- ・小学生にアレルギーを持っている子どもが一定数いると聞いている。現在の給食センターではアレルギーへの対応は、設備が原因で難しいと聞いている。新たな給食センターの整備を進めているとのことだが、設備を充実させ、アレルギー給食への対応をお願いしたい。また、対応が可能となった場合は、広報などで周知・PRすることで、アレルギーの

子を持つ保護者の安心にもつながると思う。学校給食発祥の地、食文化創造都市、そしてSDGsの誰一人取り残さないという考え方のもと、給食センター整備に取り組んでいただきたい。

→ (教育部長)

- ・給食センター整備については、整備基本計画のとりまとめを現在行っている状況であり、来年度には新給食センターの整備・運営の具体化に向けて、準備委員会を立ち上げ、市民の声を聴いていく。給食のアレルギー対応に関しては、先にまとめている基本構想の中では、いわゆる特定7品目については対応できるよう示しており、これを踏まえて整備基本計画を作成していく。

○委員

- ・加茂水産高校について、40人定員で20人程度しか入っていないような状況が続いている。遊佐高校では、県外から留学をしてもらった仕組みがあり、来た人にはある程度手厚く対応するとともに、住みやすいまちであるとPRしている。県にもお願いをしているところだが、鶴岡市としても担い手不足解消のためにも、加茂水産高校を残すような仕組みを具体的に検討していただきたい。

○委員

- ・教育で移住定住も選ばれる時代になっており、教育の質、内容、インクルーシブ、取り残さないというようなことも含めて、教育が非常に重要になっている。朝日中学校の全校生徒と、地域住民との語り合いの場を、大学院の共創コーディネーターと一緒にやっているが、効果があるのではないかと感じている。やはりフェイストゥフェイスが大事で、今度移住者と話し合う場も作ろうとしている。中学生も語り合いを2年もやっている、何かしたいという思いがすごく強く出る。地域のことをもっと学びたくても学校ではそこまではできないということもある。
- ・今度整備される義務教育学校では特色を出していくチャンスでもあると思う。例えば、国際化ということであれば「国際バカロレア」の認定も取れるような、高知県の山あいの小学校では実績もある。戦略を集約して、メッセージも込めて、取り組みができると色々循環型になっていくのではないかなと思う。

○委員

- ・ワークショップも含めて探求学習と繋げることは大事なことだが、実はこれは大人も一緒に、地域のことも知らない大人がたくさんいる。産業のことや企業のことを知らない行政職員もたくさんいる。色々な学びをいつも最新の情報も含めてインプットしながら、実践してみて、アウトプットして失敗してもやってみる。人生100年時代であるので、鶴岡の発展のためには子供だけでなく大人が学ぶ姿勢を見せ続けることが肝要だと思う。

「SDGs未来都市の実現」に関すること

○委員

- ・KPIがC評価となっているものについて、やはり自殺死亡率が大変な状況と思っている。具体的にどのような施策を行なったら良いかは難しいが、ぜひ改善につなげていった方が良い。

→ (健康福祉部長)

- ・自殺死亡率について、残念ながら鶴岡市の場合、国の水準より高い状況となっている。特に自殺は若い方で死亡原因の第1位になっており、15歳から34歳までの方が多いことが1つの特徴となっている。
- ・鶴岡市の自殺死亡率は、2017年の総合計画の初期値で16.4%だったが、コロナ禍で非常に高くなったという状況がある。ひきこもりなどで他人とのコミュニケーションが希薄になっていることや経済上の問題などが背景にあるとされている。
- ・心の健康を守る観点から、相談窓口の充実や家族の方が様々なサインを受け取った段階で、悩みをしっかりと聞きながら、専門機関、医療機関などにつなげていきたい。

また、経済的な面でお困りであれば、支援機関につなげるとともに、必要な対策を講じていきたい。

#### → (委員)

- ・「自立相談支援事業の対象である生活困窮者のうち、新規相談支援により就労につながった人の1年間の就労継続率」もC評価であることから、もう少し個人の状況に寄り添った対応が必要と思う。
- ・自殺死亡率が増えていることに対し、予防する取組も重要であると思う。

#### ○委員

- ・自殺死亡率をKPIの目標値にすることに違和感がある。当然、ゼロに近づけることが目標であるが、KPIの目標値にあるように15人を下回ったから達成した、ということが本当に良いのか。そうした数値をKPIとして推移を追いかけることに疑問を感じる。

#### → (健康福祉部長)

- ・平成18年に自殺対策基本法が制定され、都道府県や市町村では、自殺対策に係る計画の策定が義務付けとなっている。こうした中、市の施策を進めるに当たり、1つの指標として状況を捉えていくことが必要と考えている。市の自殺対策計画も改定期となっていることから、ご意見を踏まえ、検討していく。

#### ○委員

- ・自殺防止というが、その芽をつくらないことが何より大切である。相談やサインを受け止めることは、専門機関や行政だけでは難しく、いかにそうした地域社会を作っていくかが重要である。ゲートキーパー研修や虐待防止なども同時に進めていく必要があり、こうしたことも指標として検討できるのではないかと考える。

#### ○委員

- ・地域の衰退は、私たちが思っている以上に進んでいると思っている。子供が減少しているために、地域で子供がいるためのコミュニティがかつては多くあったが、今は加速度的に減少している。
- ・これまでは60歳で定年であったが、今は70歳くらいまで働いている方が多くいる。これまでは定年後、地域の会計の仕事を持ってもらうこともあったが、それが今はできなくなっている。今、地元の地域では70、80歳代の男性が主流となって動かしていると思う。70歳まで働いた人がうまく受け付けてくれれば良いが、皆さんは70歳まで仕事をして次に地域の仕事を引き受けられるか。今の総合計画の期間では現状維持できると思うが、更に将来のことも考えていかないといけない。
- ・今は災害が多い。東日本大震災で問題になったのが、女性の声が聞き取ってもらえなかった地域である。やはり、女性の方が色々大変な部分があると思うので、女性の意見を反映していかないといけないところがあると思う。でも今は70、80歳代が地域を仕切っている。全国どこでもそうなのかもしれないが、鶴岡に関しては男性を立てる意識が強い地域だと思うので、様々な部署が連携し、横の関係を密にして備える対策をしていかないといけないと思う。

#### 「産業振興と人材育成」に関すること

#### ○委員

- ・農業産出額、有機米の作付面積に関しては、人口が少なくなっていくのは前提としてあるものの、市の基幹産業として農業は重要な産業であることから、農業を守る観点から、何らかのてこ入れをする必要があると思う。

#### ○委員

- ・KPIがC評価になっている有機米の作付面積について、C評価となっはいるが農業人口が減っている中で、これだけあること自体を褒めて欲しいという思いがある。農業産出額に

については、今年米値段上がっており、やはり、米の値段でかなり、鶴岡市の産出額もかなり変わってくる現状であると感じている。

→ (農林水産部長)

- ・農業産出額については、令和4年度の実績値278億円が把握している最新の数値となっている。当時はコロナ禍の影響もあり米価が下落をしている時期でありこのような数字になっている。近年最も高かったのは平成30年度の約326億円であり、それ以降少しずつ下がっている。鶴岡市の農業の産出額に占める割合は現在、米が約45%である。残りは、米と同じ位の割合で園芸作物、その他が畜産である。
- ・世の中の動きで米の値段が上がっていることから、令和6年度の産出額を計算するとその分加味されて、数字的には大きな数字になると思うが、農業振興する上で、操作できない部分を期待することもできないので、やはり担い手をどう確保していくかが課題であると思っている。

○委員

- ・具体的な政策課題である5つの加速化アクションと、鶴岡にたくさんある高等教育機関、先端研もあるので、このような機関と具体的な政策を分野横断でも良いので、例えば共同研究など、1年だけではなく数年に渡りできないか。ただ施策として一時的にやるのではなく、将来の人材育成も含めてできないか。行政内の部署で講じていくことも必要だと思うが外部との連携も鶴岡であればできるのではないかと思う。

「定住・交流人口の拡大」に関すること

○委員

- ・新たな図書館については、鶴岡公園周辺や致道博物館と連携が可能となるよう、歴史文化ゾーンでの整備について検討をお願いしたい。

→ (教育部長)

- ・図書館については、現在基本構想の策定に向けて検討を進めているところであり、図書館ミーティングなどを実施し、新図書館の基本理念や機能などについて議論を進めている。具体的な規模や図書館と郷土資料館の関係、場所をどうするかなどについては、基本構想を受けて、その後策定する基本計画の中で検討をしていく。

○委員

- ・食文化をどのように産業や観光、交流に繋げていくかというところが少しまだ弱いのではないか。先日開催された「ふうどフェスタ」は良いイベントだったが会場が少し狭かったというような声も出ていた。大産業まつりの他に、食に特化したようなイベントをできないものかと思う。
- ・新潟県十日町市で、芸術祭「トリエンナーレ」を開催している。かなり広い地域をフィールドにアートを点在させて、そこを回らせるというイベントで、交流人口もかなり増えている。例えばこれを鶴岡の食文化で開催すると、旧町村も含んで様々な地域でネットワークを繋ぎ、そこをフィールドにして、食のイベントを行って訪れてもらう。食×建物などにより建物も見てもらおう。このような取り組みで、まず鶴岡を知ってもらうことにより、移住定住に繋がる可能性もあるので、食をテーマにしたイベントをある程度定期的に考えられないか。

○委員

- ・食文化のイベントは10周年だから行ったということではなく、やはり、食文化創造都市である限りは毎年やらないといけないと思う。小さくてもささやかでも、そういうものを積み重ねていくということはとても大切なことである。メロンシンポジウムの成功の秘訣は試食したことである。できれば食べ比べができたらもっとPRできたと思う。

## 「総合的なデジタル化戦略の推進」に関すること

### ○委員

- ・今はデジタル化をとにかく進めようという感じになっている。フィンランドでは、小学生にタブレットを配って教科書を無くしたが、集中力が低下するということで、再び紙の教科書に戻している。デジタル化の推進は特に子供たちに向けては慎重に進めないといけないと感じている。

### 全般

### ○委員

- ・5つの加速化アクションは素晴らしいと思う一方で、人口減少問題は今抱えている大きな問題であると思う。人口減少問題をどのように解決するかということを経験者の視点から見ていく部署が必要であるのではないかと思う。他の自治体などの真似をするのではなく、鶴岡独自の横串から見たときの効果的な発想を持っていただけないかと思う。

## 鶴岡市総合計画審議会 委員名簿

(五十音順、敬称略)

No.	役 職 名 等	氏 名	出欠
<b>1 市議会議員</b>			
1	鶴岡市議会	尾形 昌彦	出席
<b>2 知識経験者</b>			
2	山形大学名誉教授	平 智	出席
3	東北公益文科大学大学院 公益学研究科長	武田 真理子	出席
<b>3 関係行政機関の職員及び団体の役員</b>			
4	出羽商工会 会長	成 澤 剛	出席
5	鶴岡市社会教育委員	大久保 紀子	出席
6	鶴岡商工会議所 会頭	上野 雅史	出席
7	鶴岡市農業委員会委員	工藤 久子	出席
8	公益社団法人鶴岡青年会議所 副理事長	齋藤 祥子	出席
9	公益財団法人致道博物館代表理事・館長	酒井 忠順	出席
10	鶴岡地区医師会 会長	福原 晶子	欠席
11	鶴岡市社会福祉協議会 会長	山木 知也	欠席
<b>4 市民の代表者</b>			
12	湯田川温泉観光協会理事 合同会社つかさや旅館	庄司 愛恵	欠席
13	フェルメクテス 代表取締役	大橋 由明	出席
14	元鶴岡地域審議会委員	丸山 絢子	欠席
15	株式会社SHONAI 代表取締役	山中 大介	欠席